



令和4年度  
森林・山村多面的機能  
発揮対策交付金  
活動事例集

林野庁



# 目次

---

掲載団体一覧 .....	2
掲載団体活動所在地 .....	3
活動事例 .....	4
1 標津の森を守る会（北海道標津町） .....	4
『町と連携した関係人口の拡大と地域の活性化』	
2 かみかわ里山ネット（北海道旭川市） .....	6
『生物多様性が高く蓄積量の多い混交林への誘導』	
3 五日市里山を考える会（岩手県八幡平市） .....	8
『里山環境の保全で得られる森の恵みの活用推進』	
4 枝郷地域づくり会「さとやま・ま森隊」（秋田県大仙市） .....	10
『安全を最優先に未経験者でも楽しく』	
5 細野の山を愛する会（山形県尾花沢市） .....	12
『森林資源を活かして、交流人口を拡大』	
6 NPO 法人 馬頭農村塾（栃木県那珂川町） .....	14
『都市部の大学・団体との連携が関係人口を増やす』	
7 NPO 法人 自遊クラブ（神奈川県相模原市） .....	16
『連携と協働で活動の幅を広げる』	
8 NPO 法人 ぎふし森守クラブ（岐阜県岐阜市） .....	18
『地域の野生の生きものを守る森づくりを通じた森林環境教育』	
9 猪之頭振興協議会（静岡県富士宮市） .....	20
『森づくりで生まれる企業や地域外住民とのつながり』	
10 三ツ口山を守る会（三重県熊野市） .....	22
『「100年の森づくり」の地道な取組でよみがえる山の豊かさ』	
11 五名里山を守る会（香川県東かがわ市） .....	24
『先人の里山づくりの復活が移住者増を後押し』	
12 赤坂竹林整備組合（福岡県福岡市） .....	26
『荒廃竹林を国産ブランドの生産フィールドに』	
13 TAKE NO EN（長崎県長崎市） .....	28
『竹林整備活動を通して広がるコミュニティ』	
14 上松山区（熊本県宇土市） .....	30
『安心して楽しく散策できる里山の環境を取り戻す』	

# 掲載団体一覧

No.	活動組織名(活動地域)	活動タイプ					活動の工夫点				
		里山	竹林	資源	機能	関係	自治体・企業連携	情報発信	森林作業安全対策	関係人口交流人口	生物多様性の保全
1	標津の森を守る会 (北海道標津町)			●	●		●	●		●	●
2	かみかわ里山ネット (北海道旭川市)	●		●		●				●	●
3	五日市里山を考える会 (岩手県八幡平市)			●			●	●		●	●
4	枝郷地域づくり会「さとやま・ま森隊」 (秋田県大仙市)	●					●	●	●		
5	細野の山を愛する会 (山形県尾花沢市)	●			●	●	●			●	●
6	NPO 法人 馬頭農村塾 (栃木県那珂川町)	●			●	●	●			●	●
7	NPO 法人 自遊クラブ (神奈川県相模原市)	●					●			●	●
8	NPO法人 ぎふし森守クラブ (岐阜県岐阜市)	●	●				●		●		●
9	猪之頭振興協議会 (静岡県富士宮市)			●			●			●	
10	三ツ口山を守る会 (三重県熊野市)	●								●	●
11	五名里山を守る会 (香川県東かがわ市)			●			●	●		●	
12	赤坂竹林整備組合 (福岡県福岡市早良区)			●			●	●			
13	TAKE NO EN (長崎県長崎市)		●			●		●	●	●	
14	上松山区 (熊本県宇土市)	●	●		●		●	●		●	●

# 掲載団体活動所在地





# 活動事例

活動 里山 竹林 資源 機能 関係  
タイプ

## しべつ もり まも かい 標津の森を守る会

「標津の森を守る会」は、会の考えに賛同する標津町の住民19名によって設立された組織。町の観光ガイドとして活躍していたメンバーを中心に、自営業・農業・漁業・建設業・元公務員・元銀行員等と多彩なバックグラウンドをもつ仲間が力を合わせています。

活動地域：北海道標津町  
TEL: 090-8708-8264  
Email: s.inami446@silver.plala.or.jp



## 活動の概要

### 『町と連携した関係人口の拡大と地域の活性化』

標津町のポー川史跡自然公園は、国指定の「天然記念物標津湿原」を擁する「北海道開拓以前の文化的景観を体験・体感できる場所」をコンセプトに、古代遺跡と自然環境を一体的に保存した場所です。

「標津の森を守る会」は、標津町と連携し、このポー川史跡自然公園内のミズナラを中心とした広葉樹林 5.5ha と針葉樹林を対象に、環境林としての保全管理に取り組んでいます。枯損木・風倒

木の処理・ササ刈り等の作業で出た枝や小径木は遊歩道の整備に利用し、風倒木は薪ストーブ用の燃料として町民に還元しています。管理によって明るくなった林内では、郷土樹種であるミズナラの実生が発生するなど、広葉樹の更新が進みつつあります。また、地域内外の人々向けの自然体験学習や生物学習、自然観察会等を行うことで、交流人口の拡大や地域の活性化に貢献しています。

## 特徴的な取組

### ➤ 郷土樹種ミズナラによる広葉樹の更新

間伐やササ刈りを行うことで、林床を明るくし、郷土樹種であるミズナラの実生の発育を促しています。実生の一部は食害対策の観点から別の場所で一定期間生育させた後、当該地区に植え戻すことにも取り組んでいます。

### ➤ 町の広報誌等を活用した活動のPRと会員募集

もともと町の観光ガイドを行っていたメンバーが、標津町と連携し、活動状況を多くの方にPRすることで、活動について興味を持ってもらい、活動への参加や会員加入の働きかけを行っています。



ササ刈り作業(上)  
散乱している枝を  
処理し、チップとし  
て活用(右)



市民対象の野鳥の巣箱づくり

## 他の活動組織でもできる工夫点

- 多彩なバックグラウンドをもつ仲間を組織に加える
- 森の整備を通じた郷土樹種(在来植物種)の保全
- 企業等に対する社員研修の場としての活用を促すアプローチ



## 活動の成果

### ▶ 森の整備による公園全体の安全・安心な利用の実現

ポー川自然史跡公園内の竪穴式住居群の周辺の森の整備を行ったことにより、1万年の歴史文化を学ぶ体験型教育がより安全・安心な環境で提供できるようになりました。

### ▶ 森林資源の販売による活動資金の確保

出材した薪等の資源を番屋で使う燃料用に地元漁師に販売し、活動資金として活用しています。活動を通じて地域住民が地域資源に関心を持つきっかけを提供することで、地域全体の活性化の促進に貢献できました。

### ▶ 関係人口の創出・維持

本交付金で整備した場所を含めた公園内で、近隣の小中学校を対象に森林体験教育が継続的に行えるようになりました。



## 活動上の課題、その対応策

社員研修の場として活用してもらうための具体的な話を進めていたが、コロナの影響で未開催。引き続き関係人口の創出につなげる活動にも力を入れる。

### 一言：ここが大切！

私たちの会がここでの活動を始めて以来、標津町や町の教育委員会が、広報や学校連携等、色々とバックアップしてくれています。行政機関の支援にはとても感謝しています。

## 今後の展望

- 活動を継続するために、森の整備で出た薪等の資源を、薪需要がある町内のキャンプ場施設「海の公園」等で販売することにより、資金の確保に努める。
- これまでの活動の経験を活かし、ポー川自然史跡公園周辺の未整備の場所へと活動範囲を広げる。
- 活動について町の広報誌等の広報媒体でさらにPRすることで、活動への参加や加入の働きかけを行う。



親子どんぐり拾い(左)  
拾ったどんぐりを畑に植えて  
出た実生





さとやま  
かみかわ里山ネット

「かみかわ里山ネット」は、組織メンバーが所有する山林において、風倒・枯損木等の除去や間伐等の森林育成活動を行い、搬出される材の活用を図るほか、広葉樹など山林をフィールドとした森遊びなどを通じて市民交流を実施しています。

活動地域：北海道旭川市  
TEL: 090-8903-3001  
Email: maki@ta2.so-net.ne.jp



## 活動の概要

### 『生物多様性が高く蓄積量の多い混交林への誘導』

旭川市東鷹栖地区は、開拓以来、里山的な利用がされてきましたが、近年、手入れ不足の林分が目立つようになりました。他方、都市住民のキャンプ、薪ストーブ等への関心の高まりから、適切な森づくりや資源利用が求められるようになってきました。そこで、「かみかわ里山ネット」では、約7haの天然生二次林での市民参加型の活動等を通じて、こうした状況に対処することにしました。森づ

くりとして、成立木の競合緩和を目的とした定性間伐で、資源蓄積量の多い生物多様性豊かな混交林の育成に取り組むほか、森林整備技能向上のための安全な伐倒技術・搬出の研修、林内歩道・焚き火スペース等、森に親しむためのインフラ整備を行っています。また、資源利用として、地元の木工芸・家具用材料、ストーブ用燃料材等バイオマス素材の提供に力を入れています。

## 特徴的な取組

### ➤ 広葉樹の天然更新

活動対象地である天然生二次林(ミズナラ、シラカバ中心の広葉樹林)はほぼ平坦な土地で、開拓以来、農村部の里山林として利用された後、放置されました。これを適宜、除伐や間伐を行うことなどでミズナラ広葉樹の更新(天然更新)を図っています。搬出材は薪材として地元農家や住民に提供しています。



### ➤ 木こりとガイドの技術交流

森づくりの人材育成の一環で行っている「木こりとガイドの技術交流」では、木こりの技術として、森を読み、倒す木を選ぶ知識やチェーンソー操作技術等を伝え、ガイドの技術として、森遊びの安全管理、雪洞掘り、かんじきウォーク等を学ぶ研修を行っています。また、地元住民を対象とした環境教育の場として、市民の森づくり講座・小屋作りプログラム(年間6回)等の研修も開催しています。



プロガイドによる野外救急講習(上)  
北欧式の伐倒練習(下)

## 他の活動組織でもできる工夫点

- 森林整備に必要な技術や森づくりの考え方を学ぶ研修等の機会を積極的に設けることによる、人材の育成とスキルのレベルアップ。
- 成立木の競合緩和を目的とした将来木選木による弱度・多回数の定性間伐を通じた、多様性豊かな景観的に優れた森林の育成。



## 活動の成果

### ▶ 林内インフラの整備による森林体験の促進

間伐で林内の光環境が改善し下層植生が発達したことで、森の生物多様性が豊かになってきました。また、危険木の除去や歩道整備を通じて、林内が森林体験の場としてより活用しやすくなりました。資材庫を建設したことで、雨天時の避難場所が確保できました。



子ども達の手動  
油圧薪割機体験



伐り出した丸太をチェーンソーで製材に  
(上)  
小型ウィンチによる地曳き集材(左)



キンドリング  
クラッカーで  
薪割体験



シラカンバの選木から樹皮採取  
まで家具職人と一緒に行う『地  
元の木活用プロジェクト』



## 活動上の課題、その対応策

活動費の確保が課題。搬出材の有償提供(シラカバ・イヌエンジュ等の工芸材は、試験的利用等でこれまでほぼ無償提供。薪材として搬出している間伐材も NPO や地元農家に無償提供)について検討し、今後の活動費の確保に努める。

### 一言：ここが大切！

天然林再生を目指しながら、チェーンソー訓練や森遊びができるフィールドを整備しています。



## 今後の展望

- 弱度の定性間伐を継続し、生物多様性が高く蓄積量の多い針広混交林に誘導する。
- 市民の森遊び、伐倒・搬出トレーニングの場として活動地を継続的に活用する。
- 木工・工芸品素材、バイオマス燃料としての森林資源の有効活用を進める。





いつ かい ち さ と や ま かんが かい  
**五日市里山を考える会**

「五日市里山を考える会」は、森林の公益的機能の発揮と地域の活性化を目標に、地区内外10人の住民で結成した組織です。施業や野外活動のスペシャリストをはじめ、地域づくりや農林漁業関係のNPO 組織の関係者、獣医等、里山整備に必要な人材がそろっています。

活動地域：岩手県八幡平市  
TEL: 090-4555-8674 / 0195-72-3120  
FAX: 0195-72-3120  
Email: seikou@sukaheru.net



## 活動の概要

### 『里山環境の保全で得られる森の恵みの活用推進』

活動対象地では、森林が長年にわたり放置され、クマやシカ、イノシシ等の野生動物が頻繁に出没。景観の悪化、農林業への被害だけでなく、人々の生活も脅かされるようになりました。そこで、五日市里山を考える会では、里山林の手入れを通じて、獣害対策、景観保全上の改善、森林の公益的機能の向上を図っています。ミズナラ、イタヤカエデ、ホオノキ等、多様な樹種で構成される落葉広葉樹に

よる里山環境を目指し、除間伐、伐採木の集積・運搬、薪やしいたけのほだ木としての加工、山菜・薬用広葉樹などの特用林産物の出荷・販売など、森から得られる様々な資源の活用を進めています。

里山環境を保全し、その魅力を県内外に発信することで、活動賛同者や協力が増えるなど、森は仲間という恵みも与えてくれます。



### 特徴的な取組

#### ▶ 特用林産物の安定的な出荷・販売

薪、ほだ木やチップ等の木材資源の出荷・販売以外にも、活動フィールド内にあるタラノメ、コシアブラなどの山菜、クロモジ、ハウノキなどの薬用広葉樹を、県内外の企業等に出荷・販売しています。



### 他の活動組織でもできる工夫点

- 森が提供してくれる多様な資源を再生し活用することによる運営資金の確保
- 森林資源活用のマーケティングにも力を入れることで、森林組合・商業施設・民間企業・行政・関係団体など、多様な主体との連携



## 活動の成果

### ▶ 特用林産物の販路開拓

販路の開拓が奏功して、クロモジは、県外の薬用酒企業に原材料として販売(令和4年度の薬用クロモジ収穫量は580kg)ができるようになりました。ハウノキは、薬用として樹皮を県内企業に販売(令和4年度の皮収穫量は530kg)し、皮を剥いた残材は間伐材、伐採木と一緒にチップ用などとして地元森林組合に買い取ってもらっています。



ハウノキの伐採作業と薬用の樹皮、間伐材としての搬出(上)  
タラノメの収穫の様子(下左)  
収穫した薬用クロモジ(下右)

### 一言：ここが大切！

山の資源をどうしたら持続的に活用していけるか！  
日頃からこのことを考えていると、タイミングよく、しかるべき人や情報にたどりつける気がする。好機を逃がさず、仲間とともに新しいことにチャレンジできたことが、活動の広がりにつながっていると思う。

## 活動上の課題、その対応策

- 新たな担い手を確保するため、活動状況を広くPRし、地域内外の方々に関心を持ってもらうよう積極的に働きかける。
- 活動を広げ・継続していくための資金確保として、薪材等の生産を継続的に行うとともに、新たな森林資源活用法の検討を進める。
- 交流人口・関係人口を増やしていくため、他団体とも連携し、森林体験を提供する機会を増やし、地区内外の人々の受け入れに積極的に取り組む。

## 今後の展望

- ヤマザクラについて、薬用として需要がある皮(内皮)と、薪材となる幹の出荷を本格検討。
- アケビやヤマブドウのツルをリース材として活用するための販路開拓を本格検討。
- 市民の学習活動や社会教育事業など、地域活動の拠点である「八幡平市五日市コミュニティセンター」との里山の環境保全活動における連携の推進。





えだごうちいき かい  
**枝郷地域づくり会**  
 もりたい  
**「さとやま・ま森隊」**

「枝郷地域づくりの会」は、「次代を担う地域づくり会(枝郷若衆)」のメンバーを中心に 28 名で構成しており、近隣のボランティア組織「八乙女山を守る会」や「丸山造林管理組合」と連携して活動しています。

活動地域: 秋田県大仙市 TEL: 090-4049-7448



## 活動の概要

### 『安全を最優先に未経験者でも楽しく』

活動地域のスギの人工林は、森林経営計画制度に係る計画の策定対象から外れ、手入れが行われず、近年ツキノワグマの出没が多発するなど、景観や安全面での懸念がありました。森林整備が急務との認識から、森林所有者と問題意識を共有しながら、暮らしに役立つ里山の復活を目標に活動しています。見通しの良い森林を目指して、刈払い

を手始めに、枯損木の処理、間伐、集積作業を行っています。山林作業の未経験者が多数を占めているため、作業の実施に際しては事故がないよう森林作業に係る安全管理の徹底に努めています。安全な山の歩き方から指導し、森林整備の意義を共有するための研修や安全作業講習会の受講等を通じて、スキルアップを図っています。



チェーンソー講習会(左)と掛かり木の処理方法技術講習会の様子

## 特徴的な取組

### ➤ 徹底した安全管理

森林作業は安全を最優先にして行っています。安全作業の講習会によるスキルアップ、作業手順や安全上の注意事項を確認するための作業前のミーティング、作業エリアや内容に即した作業者の配置・グループの編成、けが人が出た場合に備えての活動日に診療可能なクリニックへの事前連絡といった事前準備のほか、作業後の振り返りなども行っています。

### ➤ 情報発信や研修で森林整備の意義の共有

森林整備の研修や活動内容の地域新聞への掲載等、様々な取組を通じて、地区住民に対して森林が地域の資源であるとの認識を高めるための情報発信を積極的に行い、森林整備の意義や問題意識を共有することで、会員の増加や、地域コミュニティの活性化につなげています。

### 他の活動組織でもできる工夫点

- 安全作業のための作業前の入念な準備と振り返り
- 地元医療従事者・機関と連携して、緊急時の体制を確立
- 森林整備活動をきっかけとした地域コミュニティの再生



## 活動の成果

### ▶ 安全管理の実践とその波及効果

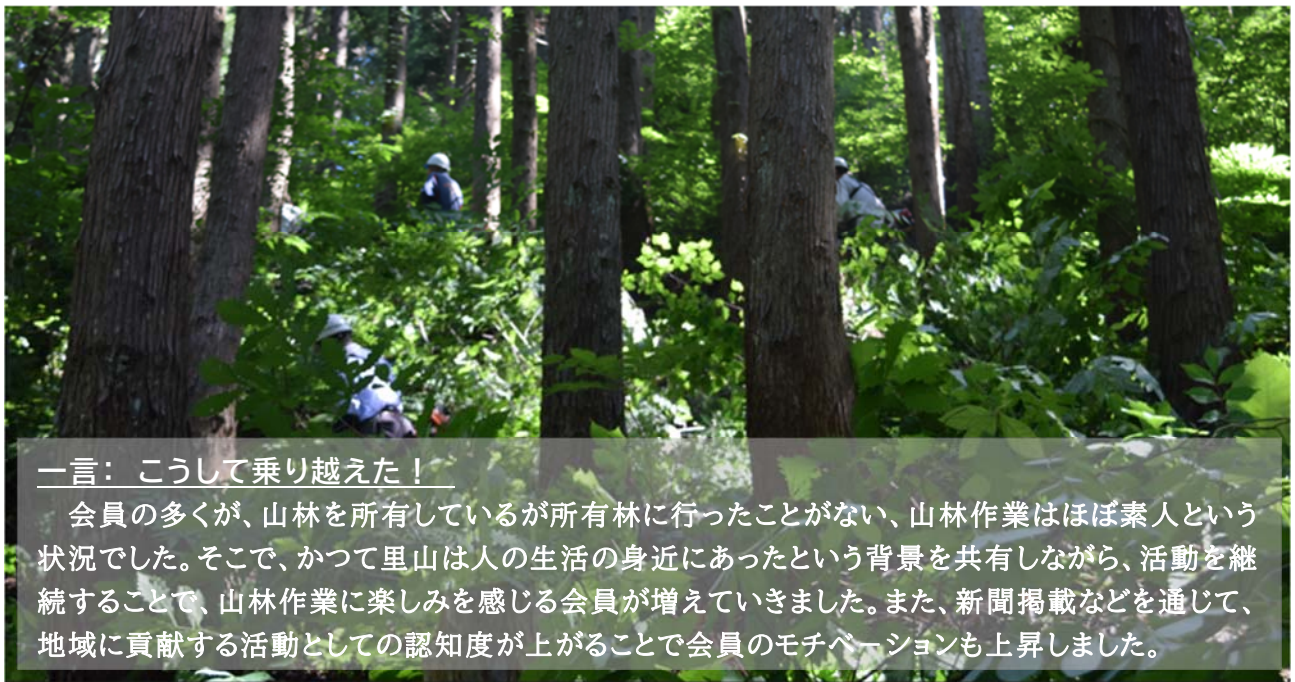
安全対策に力を入れてきた結果、これまで5年間の活動で、作業に伴う大きなケガや危険生物等による被害は1件も発生していません。また、会員が講習会で得た技術を活用して自分の山を整備する、会員同士の仲間意識が高まるなどの波及効果も現れています。

### ▶ 地域住民の関心の高まり

イベントの内容や活動の成果について SNS 等を通じて継続的に発信することで、地域新聞「枝郷の里」等でも多くとりあげてもらい、「安全かつ楽しく」というプラスのイメージが定着しました。それにより、様々な立場や年齢層からの理解が得られ、会員の増加や活動への安定的な参加につながっています。

## 活動上の課題、その対応策

- 近年目撃情報が増えているクマとの遭遇を避けるために、明るく見通しの良い森づくりを進め、子供たちが安心して自然の中で遊べる里山の再生に取り組んでいく。
- 地区内の森林であっても、個人情報の壁があり、所有者特定が難しい場合がある点からも、関係主体との連携は有効。



## 今後の展望

- 隣接する八乙女公園と連携して、自然体験・環境学習の実践の場としての活用に向けて、森林の整備と合わせて、歩道の整備などハード面にも力を入れていく。
- 活動対象地付近の森林で若い林業技術者を養成する実地研修が行われたことがあったが、こうした取組と連携して、「さとやまミニ森林公園」を造成し、親子で楽しめる植物観察やキノコの森づくり等、自然を体感できる森林教育の場とする。
- 森林の成長具合を確認しつつ、間伐材の販売も模索していく。
- 活動地周辺の放置森林についても、順次森林整備を進めていく。

## ほその やま あい かい 細野の山を愛する会

「細野の山を愛する会」は、細野地区の住民17名、地区外8名の合計25名が中心となり、森林資源の保全・活用や、地区内外の人々の森林体験・交流を進めながら、地域の活性化を図るために平成27年に結成した組織です。

活動地域：山形県尾花沢市  
TEL: 0237-28-3736 / 080-1817-0620  
FAX: 0237-28-3736



## 活動の概要

### 『森林資源を活かして、交流人口を拡大』

尾花沢市細野地区は、ミズナラ、コナラ、イタヤカエデ、ウルシ等、多様な樹種で構成される里山林とスギ人工林が80%を占め、旧来より山林の薪炭利用等が盛んに行われてきました。しかし、近年荒廃した森林が増えたため、地区内に点在する複数の山林を活動拠点に、「細野の山を愛する会」が健全な森林の育成と特用林産物の生産に取り組んでいます。過密化した針葉樹林は除間伐で林

床に光が入るようにし、広葉樹林では、除伐や枯損木の伐採をしています。また、産出した木材を地域内外の薪ストーブユーザーに無償提供するなど、森林資源の活用にも積極的で、採れた山菜等を地区内の農家レストランに提供したり、メープルサップやワラビの採取体験等のイベントを開催し、地域内外の人々の交流を促進することで、移住者が増加するなど地域の活性化に貢献しています。



山菜狩りとワラビ苗の植え付け体験

## 特徴的な取組

### ➤ 婦人会と連携した森林資源の活用

伐採木の新材としての活用のほか、広葉樹のイタヤカエデの樹液や山菜等、森林資源の掘り起こしに積極的です。イタヤカエデの樹液、メープルサップは収穫後、地区の農産物加工所に無償提供され、地元婦人会が糖度60度のシロップに加工し販売しています。また、採取した山菜は、地区内の農家レストランに提供されています。

### ➤ 森林資源を生かした体験イベント

メープルサップを採取する体験イベントは、人の交流の少ない冬場に行う人気プログラムのひとつです。雪山を20分ほど歩き、イタヤカエデの幹に穴をあけ、樹液がしたたり始めるのを待ち、採取したての樹液を味わうという他にはない体験ができます。

## 他の活動組織でもできる工夫点

- 活動を通じて産出された森林資源の加工・販売を別の組織に任せて分業することで、効率的な取組と地区全体の活性化を可能にする。
- 収穫体験と森林整備作業をセットにしたイベントで、地域内外の参加者の森林整備への理解を醸成するとともに、森林整備参画者を募る。



## 活動の成果

### ▶ 地域資源を生かした体験イベントが高評価

メープルサップや山菜等、森林資源の収穫体験イベントを通じて、地区外との交流に積極的に取り組むことで、多くの人々が細野地区を訪れるようになりました。地域資源を活かした山村集落活性化の取組が評価され、令和4年度の「国土交通省大臣賞(地域づくり部門)」を受賞しました。

### ▶ 受け入れ体制の充実による移住者の増加

地区外の参加者が細野地区に移住する事例が出てきていることから、尾花沢市(定住応援課)と連携して、細野地区内の空き家を市の空き家バンクに登録し、移住者に斡旋もしています。移住者の一人は細野地区で民泊の経営を開始するに至っています。



メープルサップの加工・販売を手掛ける地元婦人会の皆さん(上)  
古民家カフェ(右)  
販売用メープルシロップ、山菜等(下)  
地元の祭での山菜販売の様子(左)



## 活動上の課題、その対応策

- 森林整備を地域の活性化につなげる取組を継続するための新たな担い手育成や、森林資源の利活用を検討している。

### 一言： こうして乗り越えた！

ほその村発足当初は県外客が少なく困惑しましたが、各種イベントの開催案内を宮城県の新新聞にお願いしたところ効果が上がり、最近では県外者の参加が多くなりました。

## 今後の展望

- 継続的な森林整備・保安全管理が実施できるよう予算の確保に努める。
- より多くの地元住民に整備活動に参加、協力してもらえるよう、関係主体と連携を強化し、新たな森林資源の活用を検討するとともに森林保全や利活用の意識を高めていく。



ほうじん ばとうのうそんじゅく  
NPO法人 馬頭農村塾

「馬頭農村塾」は、山林農地の活用と都市と農村の交流を通じて、地域の活性化に寄与することを目的に、栃木県内を中心に、関東地方在住の農家・教師・サラリーマン・学生等、若者から後期高齢者まで幅広い年齢の人々が集まり活動しています。

活動地域：栃木県那珂川町  
TEL: 080-5617-1766 Email: itnozaki@sea.plala.or.jp  
<https://www.ac.auone-net.jp/~bato/index.html>



## 活動の概要

### 『都市部の大学・団体との連携が関係人口を増やす』

町内の田畑・里山林 9ha(内里山林6ha)が売り出されたことをきっかけに、資金を募り土地を購入して、生物多様性に富んだ里山林再生の取組を開始しました。当里山は沢が多く入込み、基本的には表土層が薄い岩山であるため、広葉樹が中心で、針葉樹(スギ・ヒノキ)は部分的に生育しているのみです。

活動区域内に搬出路を新設し、伐採木は素材生産やバイオマス燃料としたり、炭焼きやシイタケ栽培など、積極的に森林資源の利用を行っています。里

山林では、枯損木等の伐採、山道や作業道の補修整備のほか、コナラ・クヌギ等の実生苗の移植や、林床に光を入れ萌芽再生を促すとともに、県のレッドデータブックに掲載される希少植物の生育地回復にも取り組んでいます。また、活動地内の施設の一部を宿泊施設として活用し、都市部の大学や他のNGOと連携して、宿泊型林業体験教室の実施にも力を入れたことで、若手の育成が実を結び、参加者が地元森林組合に就職する等、移住者も出てきています。

## 特徴的な取組

### ➤ 大学や NGO との連携による関係人口創出

設立当初より首都圏の大学(日大、東京農大)と連携して、毎年林業体験を含むワークキャンプを実施してきました。最近では首都圏に会員を持つ NGO(一般社団法人シーズオブライフ)との連携で体験イベントを開催し、参加者がコナラやクヌギの実生を持ち帰り、苗木に育てて植え戻す活動を行うなど、活動の幅や地域を超えた仲間の輪を広げています。

### ➤ 地域全体の活性化

大山田地域活性化事業組合と協力して、里山再生活動を実施するとともに、東京や神奈川等、県外の若者・学生の受け入れなどを通して、耕作放棄地の再生等も含む地域全体の活性化に尽力しています。



### ➤ 森林資源の積極的活用

伐採木は搬出後に素材生産やチップなどのバイオマス燃料としたり、炭焼きの原料にしたり、或いはシイタケ栽培の楯木にするなどして、積極的に利用しています。



学生等を対象とした合宿でのワークショップが実施される馬頭農村塾の建物



参加者が実生を持ち帰って育てる苗木のホームステイイベント。大きくなったら馬頭農村塾の山に里帰り植樹してもらう。





## 活動の成果

### ➤ 里山環境の大幅な改善

過去8年間で里山林保全活動により、林内の光環境が改善し、下層植生が発達するとともに、多種のキノコ類も見られるようになるなど、生物多様性に富む里山環境に改善されました。



里山環境が改善し山道が見えるようになった

### ➤ 針葉樹・広葉樹等の森林資源の積極活用

活動区域内に搬出路を新設し、スギ・ヒノキの素材生産やバイオマス燃料としたり、またクヌギ・ナラなどは炭焼きの原材料やシタケ栽培をするなど、森林資源を持続的・積極的に利用しています。

### ➤ 若手移住者の増加

都市部の大学や NPO と連携し宿泊型林業体験教室を実施するなど、地域を深く知ってもらうプログラムを用意しています。こうした継続的な取組の結果、参加者が地元森林組合に就職するなど、若手移住者の増加につながり、地域の活性化の後押しとなっています。

## 他の活動組織でもできる工夫点

- 都心部の NGO や大学等、森づくりに関心がある地域外の組織や異なる層の人々との連携。
- 林業体験教室等を単発のイベントではなく、複数回のプログラムにすることで、継続的に森林整備作業に関わってもらう。

## 活動上の課題、その対応策

- NPO 馬頭農村塾本体の運営費用の捻出。里山保全活動を継続的に行う上で NPO 本体の資金調達は不可欠で、有効な方法について検討している。
- 産廃業者に狙われているなどの懸念から、設立以来、素性不明な人の参画に消極的だったが、現主要メンバーの高齢化などの状況に鑑み、新たな人材の確保にも力を入れている。

## 今後の展望

- 里山保全・再生のために、下草刈り、林道・作業道の補修・整備等の活動を実施する予定。併せてモニタリング、植生調査等各種調査も実施する。
- クヌギやナラの植林も継続実施し、里山の再生についても積極的にを行う。
- 関係人口を増やししながら、人材育成にもさらに力を入れていく。



11月12日(土) 13日(日)開催!

豊かな森と里山を未来につなげよう!

# ミライノモリ

第1回：ネイチャートレッキングと植林

森の良薬を育み、アクションする2日間

さまざまな動物や植物が生息し、生物のすみかになる山は自然が育む素晴らしい場所。この山並みに豊かな里山の風景は半世紀経たず、植林のツギツギを支えています。沢山の豊かな自然環境をつくるために、生物多様性や自然との関わりをテーマにした森づくりをスタートします。一緒に学びながら、未来へアクションしていきましょう。

<スケジュール> どちらか1日のご参加も可能です。後者をご希望の方はご連絡ください。

11月12日(土) 12:00~15:00	11月13日(日) 10:00~15:00
プレートをつけよう!	高尾村製粉所・餅焼養生による森の音楽
手植え・山歩き(山歩き)・薪割り(薪割り)	10:00~12:00 餅焼養生
薪割り(薪割り)・山歩き(山歩き)	12:00~13:00 サングラム体験
薪割り(薪割り)・山歩き(山歩き)	13:00~14:00 シュラの森の音楽
薪割り(薪割り)・山歩き(山歩き)	一緒にトレッキングしながら森の音楽を聴きましょう
薪割り(薪割り)・山歩き(山歩き)	14:00~15:00 餅焼養生

主催：NPO法人 馬頭農村塾 後援：馬頭山麓山麓山麓山下第012  
 12日 大人 1000円 小人(中学生以下) 500円  
 13日 大人 2500円 小人(中学生以下) 1000円 ※当日決済  
 〒319-0202 高尾村製粉所 電話：090-9664-7631

主催：NPO法人馬頭農村塾 協力：一般社団法人SEEDS OF LIFE Inc. 共同主催：シーズオブライフ

シーズオブライフとの連携で行われた体験イベントの案内(上)



ほうじん じゆう  
**NPO法人 自遊クラブ**

「NPO 法人自遊クラブ」は、平成16年に法人化した組織で「相模原に「市民の森」を創ろう！」をテーマに、里山を整備して活用する森林ボランティア活動をしています。活動には、相模原市在住者のほか、横浜市など近隣の在住者も参加しています。

活動地域：神奈川県相模原市  
 Email: [jiuu-club@mail.goo.ne.jp](mailto:jiuu-club@mail.goo.ne.jp)  
 TEL: 090-7182-8055(浜田)  
<http://www.sagami-portal.com/hp/dnt10030/>



## 活動の概要

### 『連携と協働で活動の幅を広げる』

自遊クラブの活動対象地は、「神奈川県立津久井湖城山公園」に近接する丘陵地帯のスギ・ヒノキの人工林とクヌギ・コナラを主とした広葉樹林です。人工林は、植林後の間伐等の管理が行き届かず、枯損木等が多くササが繁茂し立入が困難な状態に、また、広葉樹林は、薪炭林が放置され、近年、ナラ枯れ被害木が目立つようになっていました。

交付金の活動に当たっては、まず、林況を調査し、

数値目標を設定。3年間の具体的な作業計画を作成しました。1年目は灌木やササの除去による作業環境の整備、2年目は倒木等の処理と集積、3年目はかかり木の処理と劣勢木の除間伐等を予定しています。森林整備を通じた「さがみはら森林ビジョン」推進に係る市との連携や、他団体との協働などにより、さらに幅広い活動の展開が可能となっています。

## 特徴的な取組

### ➤ 処理が難しい倒木や枯損木は生物の棲み処としてあえて残す

安全を最優先し、処理が難しい倒木や枯損木は無理に処理せずに生物の棲み処として残すという選択肢も視野に入れて作業をしています。そうした場所には注意喚起の表示を設置する等して、森を訪れる市民の安全確保を心がけています。

### ➤ 自治体や他団体との協働・連携を通じた幅広い活動

森での体験等を通じて自然保護や林業の普及啓発を図る「さがみはら森林ビジョン」を推進するための市との連携や、森林整備や森遊びやマウンテンバイクを行う友好団体の「ヘリテッジキーパー」との協働などにも積極的に取り組んでいます。



## 他の活動組織でもできる工夫点

- 除伐・間伐材の活用を見据えた事業計画の作成
- 自治体や関連する団体との協働・連携による多様な取組の展開
- インテリア、ディスプレイ用等、除伐木の多面的活用



## 活動の成果

### ▶ 除伐作業による林内環境の改善と搬出材の付加価値創出

除伐、林床の整理などの作業により見通しも改善され、林内作業路も整備できました。また、除伐した樹木を活用して、市内展示会でのディスプレイ、インテリア疑似木、カシ類を使ったバイクスタンド、

高尾山の山林の植栽用支柱、川崎市内のイベントにおけるツル類を使ったクリスマスリース素材、ナラ枯れ丸太のホダ木の提供などの付加価値の創出が可能となりました。



植林支柱(下左)と店舗用ディスプレイ(下右)

## 活動上の課題、その対応策

- ナラ枯れの被害が顕在化する中、歩道脇などで被害木の伐採が必要なものもあるが、被害木は大径木であるため可能な範囲で伐採を進め、そのスキルアップも図る。
- 伐採丸太の活用には、丸太搬出のための道と土場づくり、重機導入と操作、丸太納品先づくり、資金調達などが必要になるが、可能な範囲で少しずつ進めていく。

### 一言： こうして乗り越えた！

モニタリング調査をして目標を検討することで森の見方が変わり、根拠と目標のある森林整備が出来るようになりました。掛かり木や広葉樹などの難しい樹木の伐採は、特殊伐採も行っているメンバーのリードで、団体のスキルアップが進みました。

## 今後の展望



- 隣接する未整備の森林にも活動を広げ、まとまった森を一体として整備・保全していく。
- 整備した森林を地域の子どもや企業の森林体験の場として活用。
- 次年度以降に伐採する胸高直径 25cm 以上の広葉樹を市内小学校の学習机の天板として活用するが、搬出路整備と運搬車導入が課題。
- 搬出材を活用したグリーンウッドワーク、カービング等の生木作品づくり、インテリアとしての活用。
- CO2 吸収量が多く 20 年収穫が可能な早生広葉樹のセンダンを植栽し、将来にわたる活用の可能性を検討。



ほうじん もりもり  
**NPO法人 ぎふし森守クラブ**

「NPO 法人ぎふし森守クラブ」は、地域の住民主体で里山保全を進めるため、「森を知り」「森を育て」「森を学ぶ」をモットーに森林整備や森林環境教育の活動を実践しています。

活動地域：岐阜県岐阜市  
 TEL: 058-231-3219  
 Email: prswr606@ybb.ne.jp  
 URL: <https://gifusimorimori.web.fc2.com/>



## 活動の概要

### 『地域の野生の生きものを守る森づくりを通じた森林環境教育』

「ぎふし森守クラブ」は、岐阜市にある「ながら川ふれあいの森」内の「生活環境保全林」を通る「東海自然歩道」の周辺エリアで活動を行っています。市民の保健休養、自然観察の場となっているものの、獣害等も発生し景観面・安全面で問題があったため、交付金を活用して、地域の野生動植物の生息・生育場所の保全・再生を目指した森林整備で森の景観を改

善することで、森林環境教育の活動をさらに充実することにしました。土地所有者と利用協定を結んだ里山林と竹林3.7haを対象に、下刈り、除間伐等の里山再生の作業を行っています。また、整備した森林の一部を活用して自然観察会、登山遠足等のイベントを行うなど、子どもから大人まで楽しめる森林環境教育を通じて、森の重要性を伝えています。

## 特徴的な取組

- **独自の安全対策として「安全管理の11箇条」をとりまとめ**  
 安全対策の一環で、安全な作業のための注意点を整理し、「安全管理の11箇条(事故を回避するために)」としてとりまとめました。この内容をメンバー間で共有することで、安全対策の徹底を促し、事故防止に努めています。
- **森林整備と並行した環境教育・森林体験活動の推進**  
 里山の再生と憩いの森づくりを目指し、森林整備を継続して進めていますが、本交付金を活用して整備した森林の一部については、他の助成金等を使い、森に親しむ環境教育、森林体験の機会場の場として活用しています。市民が気軽に参加できるプログラムを用意し、森の大切さを伝えることで、市民の森への関心を高めるきっかけを提供しています。



専任講師による  
チェンソー  
目立て指導



専門家による伐倒技術講習会



### 他の活動組織でもできる工夫点

- 関連する助成金や交付金等を活用して森林を整備し、森林環境教育の場として活用
- 多くの人に森林に親しみをもってもらう入口として、森林体験・環境教育といったイベントを積極的に開催



## 活動の成果

### ▶ 森林整備による景観改善と新たな森林環境教育の場の創出

本交付金を活用した森林整備を通じて森林内の景観が改善し、子どもでも安心して利用できる空間もできました。新たに整備が完了した場所を新しい森林環境教育の場として活用しています。



### ▶ 幼時期からの森林への関心の高まり、森林に関心をもつ市民の広がりを実感

市内の小学1年生の「校外教育」の支援などを通じて、幼時期からの森林への関心を高めるきっかけづくりとしています。市内の幼稚園・小学校で森林環境教育イベントのPRを行うことで、参加者が大幅に増加し、森林に関心をもつ市民の広がりを実感できるようになりました。



## 活動上の課題、その対応策

- 会員の若返りが課題となっているため、関連イベント等への参加者に森林保全活動の意義を伝え、管理活動への参加も促している。
- 環境教育活動等に係る経費等、継続的な資金確保が課題となっているため、国や地方公共団体の交付金や助成金等に応募している。

### 一言： こうして乗り越えた！

「ながら川ふれあいの森」完成と同時に発足した「森守クラブ」入会後会長指名されました。登山の経験はあり、高山植物・樹木等は多少わかるものの、森林保全は全くの素人でしたので、「岐阜県森林文化アカデミーの講座」・「ぎふ森林管理署の行事参加」等で森林保全や管理について学びました。21年間安心・安全な「森林保全・森林環境教育(木育)」を無事故で継続してきました。



## 今後の展望

- 岐阜市と連携し、「ながら川ふれあいの森」の継続的な維持管理を拡大する。
- 市民にとって安全に安心して利用できる場所にするよう里山環境をさらに改善する。



## いのかしらしんこうきょうぎかい 猪之頭振興協議会

「猪之頭振興協議会」は、富士宮市猪之頭区の自治会（340世帯）を中心とした市民、静岡県富士農林事務所、富士宮市役所、NPO法人ホールアース研究所、株式会社ふもとつばらとの連携による、市民と行政、企業によって構成されている協議会組織です。

活動地域：静岡県富士宮市

TEL: 090-8672-2388 / 0544-52-0119

FAX: 0544-52-0119

Email: m-uemat@amber.plala.or.jp



## 活動の概要

### 『森づくりで生まれる企業や地域外住民とのつながり』

猪之頭区は、過疎化や高齢化の問題を抱える一方で、富士山麓の自然豊かな地区であることから別荘やオートキャンプ場が多く立地しており、そこで使う薪需要も伸びています。活動対象森林は、手入れの行き届かないコナラ等の雑木林とスギ・ヒノキの人工林で、近年、立ち枯れや倒木が目立つようになっていました。

こうしたことから、枯損木・倒木の伐採処理、下刈り・除伐・ツル切り、間伐等による森林整備を行い、企業との連携による森林資源を活かした特産品の開発、並びに体験プログラムやイベントツアーの企画・実施などに取り組んでいます。活動は、関係人口の創出や高齢者の雇用創出につながり、地域の活性化を後押ししています。



### 特徴的な取組

#### ➤ キャンプ場や一般家庭用の薪の生産・販売

スギ・ヒノキの間伐材を利用した薪は、キャンプ場の他、コンビニエンスストアや田貫湖の施設でも販売しています。また、一般家庭の薪ストーブ用として、広葉樹（コナラ等）の薪の販売も開始しました。

#### ➤ 森林体験による心身の健康回復を科学的に実証

本交付金活動地に近接する森林を使って、森林の意義を科学的に示すモニターツアーを実施。体験プログラムで得た心身の健康状態（心理的回復効果）を数値化し、効果を実証しました。この取組は「令和3年度林業白書」にも掲載されました。

#### ➤ 地域振興を目指し多面的な活動を展開

移住・定住の促進やクルーズ船の誘致等、地域振興を目的とした様々な活動を積極的に展開しています。



クルーズ船ツアー

## 他の活動組織でもできる工夫点

- 森林から得られる生産物（薪）の販売による活動資金の補填
- 木材を利用した製品等の加工・販売
- 行政機関や旅行業関係者等と連携することによる活動の幅の拡大



## 活動の成果

### ➤ 森林整備、資源の有効活用、高齢者の雇用創出

収入が見込めず荒れていく山林の管理を、作業が困難な所有者に代わって行うことにより、森林の整備、資源の有効活用だけでなく、地域の高齢者の雇用創出にもつながりました。



### ➤ 企業等との連携による関係人口の創出

薪をはじめとした地域資源を活かした特産品の開発や、健康経営用の森林空間を活用したモニターツアー等の企画・実施など、企業や関係主体との連携を通じた関係人口の創出が実現しました。

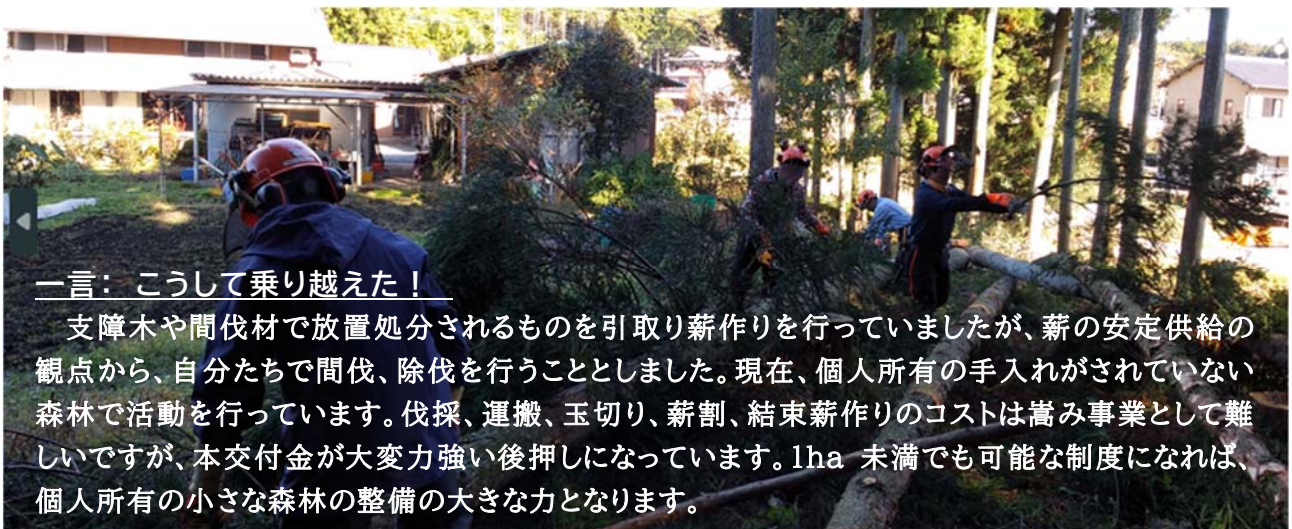


切り株に腰を下ろして楽しいお弁当の時間

マイコースター作り(左)  
クレソンの収穫体験(上)

## 活動上の課題、その対応策

- 新たな人材と薪材の確保。薪の需要はかなりあるものの、人員が限られ規格化した製品にする手間もかかるため、新たな担い手の確保が必要。
- 活動地以外でも森林整備のニーズはあるが、1ha以下の小規模な森林が点在し、対応が難しい。



### 一言：こうして乗り越えた！

支障木や間伐材で放置処分されるものを引取り薪作りを行っていましたが、薪の安定供給の観点から、自分たちで間伐、除伐を行うこととしました。現在、個人所有の手入れがされていない森林で活動を行っています。伐採、運搬、玉切り、薪割、結束薪作りのコストは嵩み事業として難しいですが、本交付金が大変力強い後押しになっています。1ha未満でも可能な制度になれば、個人所有の小さな森林の整備の大きな力となります。

## 今後の展望

- 森林を題材としたツアーの再開が見込まれることから、自然体験や地元食材を活用した料理の提供で地域の魅力を発信し、地域の湧水保全や森林の整備、木材の有効活用などの事業の推進につなげていく。
- 森林整備と間伐材等を活用した薪製品の販売の他、コースター作りや薪作り体験等、地域の森林や木材の魅力の発信を通じ、関係人口の創出にもさらに取り組む。



みつくちやま まも かい  
**三ツ口山を守る会**

「三ツ口山を守る会」は、メンバーに林業経験者がいるほか、農業、商業、行政など業種の異なる幅広い分野に精通するメンバーで構成されています。地元の住民だけでなく、ふるさとの森林づくりに関心を持つ町外で暮らす人々も参画しています。

活動地域：三重県熊野市  
 TEL: TEL: 059-237-5313

[交付金活用期間:平成 25 年度～27 年度]



## 活動の概要

### 『「100 年の森づくり」の地道な取組でよみがえる山の豊かさ』

かつて里山集落の水源だった「三ツ口山」は、戦後スギ・ヒノキの人工林として生育。皆伐された後、一旦は植栽(再造林)されましたが獣害対策が不十分であったこと、また有用な広葉樹を伐採してしまったことからススキが背丈ほどの高さまで繁殖するなど、荒廃が進行していました。

こうしたなか、20年以上前の平成13年、三ツ口山を守る会の代表は放置された森林約 45ha を自力で購入し、以前の広葉樹の森へと樹種転換することで、緑豊かな里山の生態系を取り戻すべく活動(「100 年の森づくり」)を開始しました。

未整備の森林 22ha を対象に、平成 25 年度から本交付金を活用して広葉樹の森の再生に着手しました。まず多様な広葉樹の種子を前年の秋に採取し林地に埋めることから始めました。実生苗で育てるよりも直接林地に播種(埋める)ことで発芽率の向上を促すとともに、生育に必要な地拵えや下刈り、実生苗の移植等にも取り組みました。

こうした地道な取組が実り、徐々にかつての森の姿が蘇り、活動地の一部は地域内外の人々との格好の交流の場として森林レクリエーションや森林環境教育に活用されています。

## 活動の成果

### ➤ 初期整備と播種後の保育で森づくり促進

森づくりに際しては、初期整備として獣害対策や播種後の保育をしっかりと行いました。対象地全体に高さ2mの防護柵を設置し、足下には漁網を張るとともに、直播きした種を覆土後に苗木保水剤を散布するなど、ネズミやモグラの食害対策も合わせて行いました。また、雑草木で覆われ実生が育たない場所は刈払いをして地拵えの後に、広葉樹の種を埋め、播種後5年間は保育に力を入れました。これにより獣害が著しく低下し、発芽率、活着率が向上しました。

### ➤ 森林環境学習の場としての活用

広葉樹林へと更新した森の一部(10ha)については、「森林空間活用林」として位置づけ、地域の人々に活動のフィールドを提供しています。毎年、地元小学生を対象とした森林環境学習の場としてたくさんの子ども達に活用されています。



皆伐後、放置されたままの状態だった活動開始前の対象地(上)と、本交付金を使って広葉樹の森を再生した同地域(下)



## 特徴的な取組

### ▶ 「100年の森づくり」を合言葉に広葉樹へと樹種転換

スギ、ヒノキ林から、「100年の森づくり」を合言葉に、ケヤキ、トチノキ、クヌギ、シイ類といった高木性の広葉樹林へと樹種転換を図っています。

### ▶ 適地適木を念頭に在来樹種を播種して保育

生育した苗木を林地に植栽すると、側根は伸びるが主根が育ちにくかったり移植の際に主根が切断しまう危険が伴います。これに対して、現地で採取した種子を地拵え後に直接林地に埋めた方が、直根が地中深くに根付きしっかりと育ちます。このため、隣接する森林から採取し

た在来樹種の種子は、尾根筋の陽当たりよいところにはカシ類を、沢筋にはトチノキやケヤキをといたように、適地適木の考えのもとに、それぞれ環境に即した樹種を播種しました。

種子を埋める深さは深くても浅くても不適で、ネズミやモグラに種子が食べられないようにする工夫が必要です。一晩で全滅したこともあったことから、最適の深さを見つけるまでに随分と試行錯誤を重ねるとともに、最終的には保水剤と水溶性の忌避剤を組み合わせた液体を地表付近に散布し、その表面にネットをかぶせることで発芽率の向上に向けた課題を解決することができました。

### ▶ 現地の地形(起伏)に合わせた獣害防護柵の設置

過去の反省を踏まえ、獣害対策を徹底するため周囲約5kmにわたって獣害防護柵を設置しました。山全体にステンレス製の防護柵を高さ2mまで設置するとともに上段約80cmの高さまで通電させるとともに、地表部分にも網を張り巡らすなどの工夫を凝らしました。地形が急峻で足場も悪く資材の搬入は大変重労働でしたが、転石を避けるなど現地の地形(起伏)に即して高さを加減するなど手間暇を惜しまず細心の注意を払って対策を講じたことで獣害による被害を乗り越えることができました。



獣害防止ネットの設置(上)  
在来種の種を埋める作業(中央)  
苗木の植栽(右)



## 今後の展望

- 地域住民の幅広い支援を得ることで、三ツ口山の継続的な森林整備を通じた里山環境の維持・発展
- 助成金等の利用による、地元小学校児童向けの郷土種の植栽や森林環境学習等の教育活動の実施

## 他の活動組織でもできる工夫点

- 中期的な視点で森林再生を進める。活着率、その後の成長具合などを勘案し、種から生育させることにウエイトを置くことも選択肢に入れる。
- 地形・地勢といった環境条件に適した場所に適切に播種し、保育期間は5年程度に留め、後は自然にまかせることで、管理負担を軽減する。
- 幼木や種を獣害から守るために防護柵・単木ネットの設置を行う。

ごみょうさとやま まも かい  
**五名里山を守る会**

「五名里山を守る会」は、薪作りメンバー12名が中心となり、里山整備と未利用の里山資源の活用を推進しています。里山整備に伴い伐採した木材の加工・販売を通じて、自立経営を目指す人材の育成とともに地域の活性化を図っています。

活動地域：香川県東かがわ市  
 TEL/FAX: 0879-29-2401 <https://gomyo-maki.com/>



## 活動の概要

### 『先人の里山づくりの復活が移住者増を後押し』

活動対象地の五名地区は湊川及び吉野川の水源地域で、人工林約33%に対して広葉樹林が64%を占めています。かつて広葉樹の森では人々の営みによって里山の環境が維持されていましたが、薪や炭の需要の減少等に伴い雑木が繁茂するようになりました。

そこで、「五名里山を守る会」は先人の里山づくりを引き継ぎ、対象木の伐採・搬出、及び伐採後

の萌芽更新のほか、未利用の里山資源の利活用として、伐採木のしいたけのほだ木・薪・炭への加工を手掛けています。また、行政等と連携して、閉校となった小学校の跡地を利用して設置された地区の拠点施設「産直カフェ・五名ふるさとの家」で薪・炭の販売や、ジビエ料理の提供等を行っています。こうした地域活性化の取組により、若い移住者が年々増加しています。



薪ステーション(上)  
 産直カフェ「五名ふるさとの家」外観と内部(左)  
 伐採木を加工したしいたけのほだ木(右上)  
 萌芽更新が進む伐採跡地の様子(右下)

## 特徴的な取組

### ➤ 五名活性協議会の立ち上げ

地域住民と、地域創生を担当する行政・観光協会・地域おこし協力隊、地域づくりを学ぶ香川大学の学生などが連携し「五名活性化協議会」を発足。「里山活性化プロジェクト」や、「小学校跡地 新施設プロジェクト」など、地域全体の活性化に資する協力事業に取り組んでいます。

### ➤ 移住者受入れ支援

移住希望者には、事前に体験宿泊や地域行事への参加を促し、地元住民との交流の場を設けるほか、住宅として地区内の空き家を提供するなど、地域全体で支援を行っています。移住者も、林業、薪ステーションの運営、陶芸、家具の展示販売、カフェの開業など、様々なビジネスを展開し、地域の活性化に一役買っています。



## 活動の成果

### ➤ 里山資源がふるさと納税の返礼品に

伐採木の里山資源としての利活用が拡大(薪原木:40t、しいたけ原木:3,000本、炭木:20t/令和4年)しています。径が大きいものは薪ストーブ用の薪に、細いものはしいたけの原木や炭として、地区内外に販売しています。「五名の薪」は、東かがわ市との連携で、ふるさと納税の返礼品となっています。

### ➤ 移住者数の年々の増加

2021年7月時点で、人口の13%にあたる38人が五名地区に移住してきました。移住者が地域の産業である林業や農業を引き継いだり、地域資源を活かした取り組みを行ったりする事例も多く見られるようになってきました。



ホームページでは、薪の他に、きのこの原木、丸太の椅子等も販売されている。

## 活動上の課題、その対応策

- 薪等の活用に係る作業サイクルとしては、10月～5月頃までは仕事があるが、6月～9月頃にかけて仕事がない。この間は農家の草刈支援など別の仕事に充てているが、雇用の安定には林業で年間を通じて収入が得られるしくみづくりが必要。
- シカ・イノシシ等の害獣被害の回避。現時点ではシカによる被害は少ないが、今後に備え侵入防止柵の設置を検討。
- 所有者探索や不在村所有者との認識のずれの対応。個人情報との関係もあり所有者特定に至るのが困難なケースもある。

### 他の活動組織でもできる工夫点

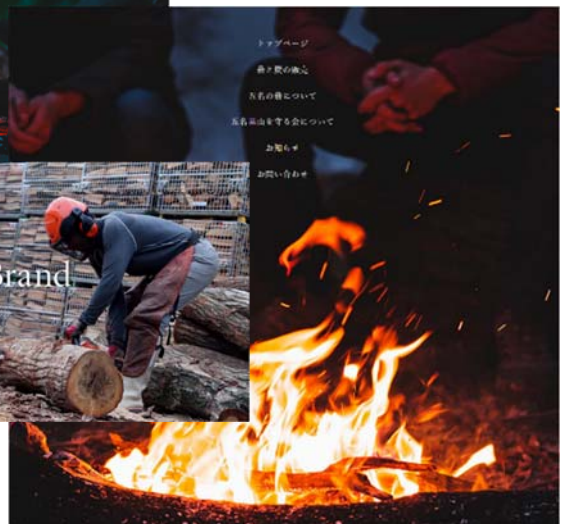
- 地元行政・観光協会・地域おこし協力隊、大学関係者・学生等との連携・協力、協議会の立ち上げによる情報の共有、活動の拡大。
- ホームページの充実に関心を注ぐことによる取組の内容や成果等に関する恒常的な情報発信の場の整備と、近隣・遠隔地に関わらない活動支援者の開拓。



ホームページでは、魅力的な写真とともに、取組の成果などが紹介されている。

## 今後の展望

- 令和5年度以降も森林所有者と新規及び継続して利用協定を結び、森林の管理・利活用を実行する。
- 新たな森林整備のフィールドとして適当な場所があれば、森林所有者に管理・活用の提案を行う。



あかさかちくりんせいびくみあい  
**赤坂竹林整備組合**

「赤坂竹林整備組合」は、「地域の産業、地域で雇用」を掲げ、竹林の整備を通じた地区内での持続可能な雇用創出を目指している組織です。タケノコ生産の産業化や、伐採竹を加工した土壌改良材の近隣農家への販売などに取り組んでいます。

活動地域：福岡県福岡市  
TEL: 092-804-3686 FAX: 092-836-7678  
Email: info@bamboosawara.jp  
https://bamboosawara.jp/



## 活動の概要

### 『荒廃竹林を国産ブランドの生産フィールドに』

福岡市早良区飯場地区は、かつてタケノコの産地として知られていました。しかし、中国産の安価なタケノコの影響で、国内産の価格が下落。生産者が減り竹林が放置され荒廃が進みました。

そこで、竹の利用と産業化を目的に、活動地の竹林を国産ブランド「飯場たけのこ」の生産フィールドとして整備し、販売網を構築することで、竹林の荒廃抑制と地域の活性化に取り組んでいます。

タケノコ等の生育に必要な環境整備として、作業道の作設やイノシシ侵入防止フェンスの設置などを行いました。伐採竹のチップは、土壌改良材としての地区農家に提供するとともに、水煮加工の燃焼効率を上げるための固形材料化の検討も進めています。このほかホームページを開設し広報に力を入れるとともに、販売網構築のために商工会やJAとの連携等にも積極的に取り組んでいます。



## 特徴的な取組

### ➤ 竹林整備から商品開発、出荷・販売までの一貫した取組

竹林整備で発生した森林資源から様々な商品開発、出荷・販売まで一貫した取組を推進しています。水煮加工したタケノコは、塩漬け、酢漬け、ラー油炒め、醤油炒め、おにぎりやピザの具材などとして販売されています。

### ➤ 伐採竹の農業用利用

青竹の破碎処理で発生する竹粉を、土壌改良材として農業利用を目的に近隣農家に販売(1千円/m<sup>3</sup>)。未利用資源の地域内での有効活用にも積極的に取り組んでいます。



### 他の活動組織でもできる工夫点

- 商工会やJA等の関係主体との連携による森林資源の販売促進
- ホームページでの広報を通じた遠方の消費者への販売ルートの確立



## 活動の成果

### ➤ 竹林の荒廃抑制と地域の活性化に貢献

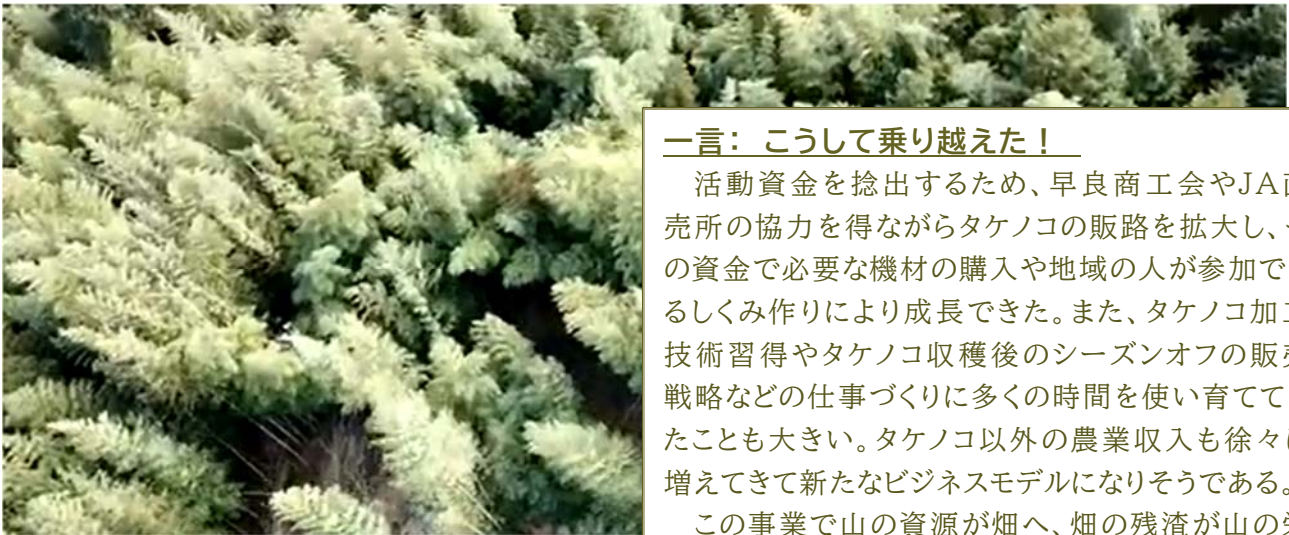
放置され荒廃した竹林が、活動を通じて国産ブランド「飯場たけのこ」の生産地に復活しました。竹林整備で発生した森林資源から様々な商品が生まれ産業化が進み、竹林荒廃の抑制と地域の活性化に貢献できました。

### ➤ 法人立ち上げによる商品開発と販売促進

タケノコを使った商品開発・販売を手掛ける法人「バンブーさわらの郷合同会社」を立ち上げたことにより、竹林整備で発生した資源を有効活用した様々な商品の開発・販売が促進されました。

## 活動上の課題、その対応策

- 新たな雇用が可能となるよう、付加価値の高い商品開発や体制づくりに継続して取り組む。
- 同様の市販の商品より割高感があるので、コストを削減して商品の販売価格を抑え、売り上げを増やす方法を検討。



### 一言：こうして乗り越えた！

活動資金を捻出するため、早良商工会やJA直売所の協力を得ながらタケノコの販路を拡大し、その資金で必要な機材の購入や地域の人に参加できるしくみ作りにより成長できた。また、タケノコ加工技術習得やタケノコ収穫後のシーズンオフの販売戦略などの仕事づくりに多くの時間を使い育ててきたことも大きい。タケノコ以外の農業収入も徐々に増えてきて新たなビジネスモデルになりそうである。

この事業で山の資源が畑へ、畑の残渣が山の栄養になることで地域の農業が持続可能な地域産業になることを目指していきたい。

## 今後の展望

- 竹林資源の有効活用を目的に、国産タケノコの販売体制構築を視野に入れた近隣農家との連携。
- 地域の特性を活かして、タケノコの生産量を増やして地域の雇用創出につなげる。
- 竹林整備に係り、福岡市水道局との協働による水源林を守る活動などの促進。
- 竹林の保全と活用に加え、地区の安定的な雇用確保を念頭に、竹林整備・タケノコの生える環境づくりを通じて、竹資源の活用モデルを作る。



ホームページでの広報の様子



# たけのえん TAKE NO EN

「TAKE NO EN」は、放置された竹林の適正な維持管理に取り組む会員数63名の団体。竹を活用したイベントの開催を行い、その様子を SNS で積極的に発信するなど、地域内外を巻き込んだ活動に力を入れています。

活動地域：長崎県長崎市  
TEL：080-1547-8639  
Email：mozuku351laye@gmail.com  
<https://www.en-nex.co.jp>



## 活動の概要

### 『竹林整備活動を通して拡がるコミュニティ』

「TAKE NO EN」は、放置された竹林の多面的機能の向上と地域の人々に憩いの場を提供するために活動しています。活動開始に向け会員を募ると、様々な専門分野を持つ人々が集まった一方、活動に不可欠な竹林管理に長けた人材が不足していました。そこで、本交付金を活用し、地域協議会の技術支援を受けて竹林管理の技能向上を図りました。

それを後押しに、活動1年目の令和 3 年度は、枯竹等の伐採・搬出を行い、2年目からは、段階的な間伐や山道の整備、タケノコの採れる竹林の回復などに取り組んでいます。防災の観点から森林整備の必要性について考える機会や、伐採竹を使った門松や竹馬づくり等、地域の人々が地域の資源に目を向けるきっかけを提供するとともに、会員の得意分野を駆使して活動内容を SNS 等で積極的に発信しています。



防災の観点から森林整備の必要性について考える防災講習会



安全講習会

## 特徴的な取組

### ▶ 多様な専門分野を持つ会員維持の工夫

地区内外の 20 代から 50 代を中心に、1 歳から 84 歳までの幅広い年齢層の会員が「安全にかつ楽しく」取り組めるよう工夫して活動を行っています。「自分にできることをする」をモットーに、得意分野の情報や知恵を持ち寄り、誰もがそれぞれに取り組める場を提供しています。

### ▶ SNSを使った情報発信

様々な場面で SNS を積極的に活用して活動の充実につなげています。例えば、活動への参加呼びかけなど、広報手段としての活用のほか、安全な活動の実施に向けた検証の方法として、各活動後にメンバー間で「ヒヤリ・ハット」の情報の共有などを行っています。

## 他の活動組織でもできる工夫点

- SNS 等を通じた活動やイベントの様子の積極的・継続的な情報発信
- マスコミへの発信や取材協力等により、マスコミを活用した広報の展開
- 森林整備の経験が浅い会員に対する技能向上のための講習会等への参加



## 活動の成果

### ▶ 活動組織全体の技能力の向上

森林整備経験の浅い会員を対象に、地域協議会である森林ボランティア支援センターが主催する講習会(チェーンソーの安全使用や安全講習会)に参加しています。安全で正しい伐竹や竹林整備の技術を組織全体でレベルアップすることができ、活動の充実に役立っています。

### ▶ 情報発信による会員の安定的参加の実現

イベントの内容や活動の成果を、SNS等を通じて継続的に発信することで、マスコミ等で多くとりあげてもらい、「安全にかつ楽しく」というプラスの活動イメージが定着しました。それにより、会員の安定的な参加につながっています。



活動の様子が紹介された動画サイト



竹林整備で出た竹やタケノコ、笹は、寄附したり、正月飾り作り(上)や流しそうめん大会(左)等、様々なイベントで活用しています。

## 活動上の課題、その対応策

- 私有地を借りての活動であるため、相続等による地権者の変更・増加などで対応が複雑化することが課題。
- 私有地を借りての活動であるため、森林整備で経済的な利益を得るのが困難なことが課題。活動資金の確保には、バザーを開催し売り上げの一部を資金に充当。

### 一言： こうして乗り越えている！

貴重な休日を利用し、他人の山を無償で整備するという活動におけるメンバーのモチベーションを維持するために、イベントの開催などを通して、活動の先に人々の笑顔や感謝があることを実感してもらう。また、整備活動後やそれ以外でのメンバー同士のコミュニケーションを大切にしている。

## 今後の展望

- 令和4年度には、竹林資源の有効活用を目的に、竹炭パウダーを作り、地元高校生たちと竹炭スイーツ開発・販売に挑戦した。この竹炭やスイーツ作りは障害者事業所が行った。今後も、持続可能な森林整備のため、山の資源活用・販路の確保などについても継続的に検討していく。
- 防災面からも森林整備の必要性を多くの人に伝え、防災意識の向上を図る活動を展開していく。



## かみまつやまく 上松山区

「上松山区」は、宇土市上松山区の約 1,000 世帯規模の自治会が組織する地縁団体で、平成5年に発足しました。里山の原風景を取り戻す活動を行う地元の組織「五色山ふれあいの会」と連携し、五色山の保全に取り組んでいます。

活動地域： 熊本県宇土市  
TEL: 0964-22-1194  
Email: musasi661214@osu.bbq.jp



## 活動の概要

### 『安心して楽しく散策できる里山の環境を取り戻す』

上松山区の東に位置する「五色山」は、戦後、化石燃料の利用拡大に伴い、薪などの採取のために山に入る機会が減ったことで、里山の荒廃が進み獣害への懸念が高まりました。こうしたことから、地区の地縁団体「上松山区」は、里山の原風景の回復に取り組む「五色山ふれあいの会」と連携し、五色山の広域的な保全体制を構築することにしま

した。森林の多面的機能が十分に発揮されるかつての里山の環境を取り戻すため、除伐、侵入竹の伐採、枯れ竹の除去といった森林管理を行うほか、人々が安心して楽しく散策できる「木漏れ日」の森づくりを目指して、森林内の光環境や景観の改善、里道の修復・復元等を通じて、有害獣の定着抑制にも役立つような環境づくりに取り組んでいます。

## 特徴的な取組

### ➤ 地区全体で活動を支援

「上松山区」は、上松山区に暮らす子育て世代からシルバー世代までの幅広い住民を基本メンバーとする地縁団体です。

森林整備実働部隊として活動の核をなす会員 53 名のほか、地区住民の多くが名を連ねる協賛会員 500 名で五色山を守る取組を支えています。

### ➤ 宇土市への働きかけ

熊本地震の翌年の平成 29 年、活動地区の多面的な機能の向上に向けて、「五色山総合公園構想」を独自に策定しました。宇土市に対し同構想の推進を提言したところ、五色山グラウンドが市の防災避難場所に指定されることになりました。五色山の自然公園化に向けて、同構想に基づく整備方針(案)を今年度中にとりまとめ、市に提示する予定です。



イノシシ防止柵設置作業

## 他の活動組織でもできる工夫点

- 地区内住民の理解を促し、市との連携を模索するため、活動の意義や構想、計画等を明文化
- 地区広報誌「上松山区だより ごしき」(毎月発行)における活動状況・成果等の共有
- 情報発信ツールとしてホームページを開設(令和2年)し「上松山区月報」(バックナンバーも閲覧可)や地区活動報告(動画含む)等を掲載



## 活動の成果

### ▶ 人々が楽しめる里山環境の保全・回復

遊歩道の整備や維持管理作業、林内の中高木の除伐等を行ったことで、木漏れ日の中、五色山の里山景観を安全に楽しく散策してもらえる環境が整いました。また活動を通じて、五色山山頂付近の展望が確保されたことも、来訪者誘致の大きな要素となっています。



みはらしが丘からの眺望

「木漏れ日」の森の里道と散策を楽しむ人々

### ▶ 獣害の抑制

鬱蒼とした林床の除伐、イノシシ侵入防止柵の設置が功を奏し、イノシシ等の出現が減り、有害鳥獣の定着が抑制できました。



## 活動上の課題、その対応策

- 計画的、効率的に事業を推進するために、①毎月1回役員会（推進委員会：委員10名）を開催し実施状況・課題・今後の計画を協議し、②事業の予算執行年間計画をメニュー別に作成し執行状況点検調整し、③始業前の集合写真撮影後、当日の作業説明と作業の危険防止について注意喚起を行った。
- 区民の協力と支援体制を構築するために、区民との共通認識を深める目的で、①事業の実施状況を区の広報誌（毎月1回全世帯配布）にほぼ毎回掲載し、②週3回の定例作業日には有線放送で作業参加を呼び掛け、③五色山の「自然公園構想と整備方針」を策定し全世帯に配布予定。



### 一言： こうして乗り越えている！

迷ったら一步前進。やってみらんと分からん。どがんしょうか、て尻込みしとつてもなんも変わらんけんです。一步踏み出すと道が開けるかもしれない。そういう気持ちで日々活動しています。

上松山区だより「ごしき」の五色山保全活動報告

## 今後の展望

- 会員の高齢化による活動上の制約を補完し、活動の継続を可能にするため、令和5年度より上松山区住民を主体とする「上松山区里山保全隊」を新たに結成。
- 若い世代の理解・参画を促すため、地区広報誌やホームページ等を活用し活動の発信をさらに充実。
- 散策路の整備・維持管理を通じて、市内の小中学校に安心・安全な遠足や環境教育の場を提供。

*Memo*



*Memo*

令和4年度

森林・山村多面的機能発揮対策交付金 活動事例集

発行 林野庁

作成 公益財団法人 日本生態系協会